

政策研究大学院大学における  
経営協議会における主な意見とその対応状況

《2021年度》

会議開催日	学外委員からの意見	対応状況
2021年 6月21日	オンライン講義等の実施が定着しつつあるが、対面でしか得られないものもあるため、今後は可能であれば対面講義などの実施も検討いただきたい。	<b>【2021年度の取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染の状況や受講者数、講義内容等により、オンライン形式、対面形式、両者併用形式を活用している。</li> <li>・対面講義実施のため、感染予防としてのワクチン接種を支援している。</li> <li>・オンライン/対面形式併用形式講義実施のため、教員を対象とした講習会の実施、必要機材の整備等を行った。</li> </ul>
2021年 7月26日	「新聞やメディアを通じた研究成果等の発信」について、積極的に発信していくべきであり、SDGsアワードは好例だと思う。	<b>【2021年度の取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsアワードの公募、受賞者の選出・公表、受賞者による講演を継続して実施した。</li> </ul>
2021年 10月28日	公益通報窓口に係る情報は、わかりやすく掲載したほうがよい。	<b>【2021年度の取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブサイトの大学案内ページに公益通報に係る情報提供のページを作成した。</li> </ul>
2022年 1月20日	修了生に対して、アンケートを実施してはどうか。	<b>【2021年度の取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度から修了生を対象として、大学の広報先や、本学で学んだことがどう役に立っているのか等を問うアンケートを実施することとした。</li> </ul>

《2020年度》

会議開催日	学外委員からの意見	対応状況
2020年 7月28日	オンライン講義の満足度が高いことを評価するが、不満を持っている学生は回答していない可能性もある。オンラインでのコミュニケーションには限界があるため、状況により対面講義の再開が望ましいように思う。	<b>【2020年度以降の取組（再掲）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染の状況や受講者数、講義内容等により、オンライン形式、対面形式、両者併用形式を活用している。</li> <li>・対面講義実施のため、感染予防としてのワクチン接種を支援している。</li> <li>・オンライン/対面形式併用形式講義実施のため、教員を対象とした講習会の実施、必要機材の整備等を行った。</li> </ul>
	本学修了生の活躍は、在学生への刺	<b>【2020年度以降の取組】</b>

	<p>激や新規学生のリクルート材料となりうる。ぜひ広報すると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2019 年度に創設した SDGs アワード（修了生の SDGs 達成に貢献する活動の情報を集め、教育成果を広く世界に発信するとともに、SDGs に貢献する活動を表彰するもの）の公募、選考を継続し、ウェブサイトでの広報及び受賞者による講演を継続している。</li> </ul>
	<p>修了生ネットワークの強化は、この新型コロナウイルス感染症の感染状況では難しいと思う。今後活動を強化していく考えはあるか。</p>	<p><b>【2020 年度以降の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンラインを活用した GRIPS Global Web Reunion および国内同窓会を継続して開催している。オンラインを活用することで、これまでは国別、地域別でのネットワーク強化活動が中心だったところ、幅広い国・地域を対象としたネットワーキングの機会提供が可能となっている。また、多忙であってもオンラインで参加できる修了生もおり、同窓会での修了生報告も多様化している。</li> </ul>

《2019 年度》

会議開催日	学外委員からの意見	対応状況
2019 年 10 月 31 日	<p>新たな取り組みである SDGs Award について、寄附金を集めて事業を実施してはどうか。</p>	<p><b>【2019 年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GRIPS 基金に特定基金「GRIPS SDGs アワード基金」を設置し、寄附金募集を開始した。</li> </ul>
2019 年 10 月 31 日	<p>新たな取り組みである SDGs Award について、Alumni の活性化にも資する取組みである。受賞者のパブリシティにも期待したい。</p>	<p><b>【2020 年度以降の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GRIPS SDGs アワード受賞者による講演をオンラインにより開催している。</li> <li>・ 第 2 回及び第 3 回 GRIPS SDGs アワードの公募を行い、それぞれ 1 名の受章者を選出した。</li> </ul> <p><b>【2019 年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2019 年度に公募を行い、60 名の修了生から応募があり、その中から 1 名の受賞者を選出した。2020 年 6 月に受賞者を招聘、講演実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大を受け、延期となった。</li> </ul>
2019 年 10 月 31 日	<p>アフリカからの入学者が減っている。今後、人口増が見込まれるのはアフリカ、入学者を増やす取組みをしていただきたい。</p>	<p><b>【2019 年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アフリカからの学生の受け入れを強化するため、令和元年 11 月～12 月に副学長と同窓会担当がアフリカ 6 か国を回り、プロモーション活動及び各国で同窓生の意見聴取を行った。</li> </ul>

2019年 12月19日	学生数が減少している状況を踏まえ、志願者・入学者数の確保に一層取り組んでいただきたい。	<b>【2019年度の取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人がアクセスしやすい夜間や土日・休日 に開講する教育プログラムを新たに開設するとともに、国内の中央省庁や地方公共団体への学生募集活動を実施した。</li> </ul>
-----------------	---	---

### 《2018年度》

会議開催日	学外委員からの意見	対応状況
2018年 12月14日	ハラスメントの防止策としては、民間企業では周知とともに事例を紹介する冊子の配布を行うなどしている。各自の意識を高める必要がある。	<b>【2020年度以降の取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全教職員を対象に e-Learning による研修を実施した。</li> </ul> <b>【2019年度の取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2019年9月、10月、2020年1月に教員向けにハラスメント防止研修を実施した。また、教員懇談会では注意喚起を行った。</li> </ul> <b>【2018年度の取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2019年1月に職員向けにハラスメント防止研修を実施した。教員に対しては、2019年2月の教員懇談会において注意喚起を行うとともに、2019年度に研修を実施予定である旨の周知を行った。</li> </ul>

### 《2017年度》

会議開催日	学外委員からの意見	対応状況
2017年 4月18日	留学生との交流によって新しいケミストリーが醸成されることもあると聞く。ラウンジはあるようだが、さらに工夫を重ね、交流を深めていただきたい。	<b>【2019年度の取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Global Studies コースを引き続き実施し、2019年度は10名の日本人学生が本コースを修了した。</li> <li>・ 日本人学生の英語による授業科目の履修促進や英語指導の参考とするため、国内プログラム日本人学生に対して入学時における英語能力を把握するためのプレースメントテストを実施した。</li> </ul> <b>【2018年度の取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修士課程国内プログラム学生募集要項に、英語で開講する科目の履修も推奨している旨記載することにより、出願前の段階から、英語科目履修の推奨について周知を行った。</li> <li>・ 修士課程公共政策プログラム・科学技術イノ</li> </ul>

		<p>バージョン政策コースにおいて、5科目中2科目を英語で開講し（「Economics of Innovation」、「Analysis of Science and Technology Policy Progress」）、英語による専門科目教育の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Global Studies コースを引き続き実施し、2018年度は19名の日本人学生が本コースを修了した。</li> <li>• インフラ政策コースにおいて、コース指定科目として1科目を追加、合計2科目とし、公共政策プログラム選択科目にインフラ系の英語科目2科目を追加した。さらに、Disaster Management Policy Program (DMP) の2科目の履修を推奨し、留学生とグループワークやプレゼンを実施した。</li> <li>• プロフェッショナル・コミュニケーションセンター(CPC)において、上記 Global Studies Course の履修をしようとする日本人学生を対象に、「Abstract Writing」を開講し、また、自主学习用教材を必要な学生に配布した。</li> <li>• 日本人学生の英語による授業科目の履修促進や英語指導の参考とするため、国内プログラム日本人学生に対して入学時における英語能力を把握するためのプレースメントテストを実施することとし、2019年4月試行的実施に向け準備を行った。</li> </ul> <p><b>【2017年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Global Studies コースを開設し、20名が修了した。</li> <li>• 2018年度修士課程国内プログラム学生募集要項に、英語で開講する科目の履修も推奨している旨記載することにより、出願前の段階から、英語科目履修について周知を行った。英語科目を履修する日本人学生が増加することにより、留学生との交流の機会も増えることが期待できる。</li> </ul>
2017年 10月25日	(寄附拡大に向けた取組) GRIPS がどのような学校であるかということを経営協議会のメンバーも深	<p><b>【2019年度以降の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2019年度以降においても引き続き協議事項を設定し、学生の入学・修了の状況、プ</li> </ul>

	<p>く理解するためには、法定の審議事項だけでなく、大学で実施されていることを随時報告するなどの工夫をしていただきたい。</p>	<p>プログラムの実施状況について報告のうえ、意見交換を行った。</p> <p><b>【2018年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度からは、より活発な意見交換を行うため、審議事項、報告事項に加え、新たに「協議事項」を項目として設定した。</li> </ul> <p><b>【2017年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営協議会において、審議事項、報告事項とは別に実施事業の説明を行った。</li> </ul>
<p>2017年 10月25日</p>	<p>(寄附拡大に向けた取組) 東大の公共政策大学院は毎月ニュースレターを出しており、OBや現役の学生、教員がエッセイを書いている。そのようなアイデンティティ作りが必要ではないか。</p>	<p><b>【2019年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、Alumnus of the Month を発信、2019年度は12名の修了生の紹介を行った。</li> <li>・引き続き、国内同窓会では、大学と協力しながら会報を発行、2019年度は第2号、第3号を発行した。会報では、引き続き政策の現場で活躍する修了生のエッセイや、元教員インタビューを掲載した。</li> <li>・引き続き、大学広報紙 Pensée (パンセ) の発行を日・英で行い、国内外の同窓会で配布している。また、大学公式 Facebook において学内イベントの紹介や本学教員による刊行書籍、受賞の紹介を行っている。</li> </ul> <p><b>【2018年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、各分野で活躍している修了生のインタビューを Alumnus of the Month として、修了生及び学内へ E メールで発信するとともに本学ホームページへ掲載している。2018年度は12名の修了生の紹介を行った。</li> <li>・2017年度に創設した国内同窓会では、大学と協力しながら、年に2回程度を目指して会報を発行しており、政策の現場で活躍する修了生のエッセイを掲載している。</li> <li>・大学広報紙 Pensée (パンセ) の発行を日・英で行い、国内外の同窓会で配布している。また、大学公式 Facebook において学内イベントの紹介や本学教員による刊行書籍、受賞の紹介を行っている。</li> </ul>

《2016年度》

会議開催日	学外委員からの意見	対応状況
-------	-----------	------

<p>2016年 10月19日</p>	<p>他大学ではファンドレイザーの雇用や、経済界・銀行等の経験者を集めてOBを訪問し寄附を集めており、効果を上げている。卒業生や共同研究相手から寄附や、記念事業の実施に際して寄附を募るなども行われている。GRIPSでもこのような体制づくりを行ってはどうか。</p>	<p><b>【2019年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会、学位記授与式等で寄付ブースを設置し、寄付を募る取組を実施した。引き続き、同窓会組織と協力し、寄付金付きグッズの販売を行った。</li> </ul> <p><b>【2018年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学位記授与式、国内同窓会等の機会に寄付金受付ブースを設置し、寄付を募っている。また、2018年度の国内同窓会では、同窓会組織と協力し、寄付金付きグッズの販売を行った。</li> <li>・特定基金として「GRIPS フォーラムへの支援」を寄付目的に追加するとともに、GRIPS フォーラムの特別講演を大学広報紙 Pensée (パンセ) 特別号として作成し、紙面に寄付の案内を掲載した。本広報紙はGRIPS フォーラムへの来場者へも配布を行っている。</li> </ul> <p><b>【2017年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クレジットカード受付を開始し、学内外より簡易な手続きによる寄附申請を可能としている。</li> </ul> <p><b>【2016年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年4月以降、本学設立20周年記念事業に向けた広報とあわせて幅広い方面からの寄附に繋がるよう、本学職員をファンドレイザー研修に参加させるなど、寄附獲得に向けた体制づくりを進めている。</li> </ul>
<p>2016年 10月19日</p>	<p>海外の大学では寄附者に対して大学からの礼状だけでなく、奨学金を受給した学生本人の写真と礼状が送られるなどし、寄附者がさらに寄附をしたくなる仕組みになっている。手間はかかるが、同様に寄附者をつなぎとめ、広げていく努力・工夫が必要ではないか。</p>	<p><b>【2018年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄附研究部門において、寄附者に対して研究の成果や進捗状況についての報告を随時行うとともに、意見交換を行っている。また、寄付研究部門が主催（共催）するシンポジウム等のイベントの案内を行っている。今後も寄附者との緊密なコミュニケーションをとりつつ、研究を実施する。</li> </ul>
<p>2017年 1月25日</p>	<p>CPCの概要説明に関して、人的な制限もあるだろうが、論文のライティングの指導をさらに精査してほしい。特に修士の学生は今後Ph.D.に行きたいという学生もいるので</p>	<p><b>【2016年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正規授業としての外国語科目について質を向上させるため精査を行い、前年度から7科目を削減するとともに、ライティング科目を1つ増設した。</li> </ul>

	ライティングの指導が強化される ことが望ましい。	
--	-----------------------------	--